

アレクソン 「ひかり電話」対応コミュニケーションサーバー

現場が納得する新製品で 「ひかり電話」導入を着実にサポート

モデム、TA、VoIPゲートウェイと通信インフラの進化に合わせて主軸となる製品を替えながら成長してきた通信機ベンダーのアレクソンが、「ひかり電話」対応のコミュニケーションサーバーを2機種発表した。工事や保守に配慮した細かな仕様を追求し、通信機ディーラーが売りたいくなる製品に仕上げている。

「ひかり電話」だけを導入し、「フレッツ」のネットワークサービスを利用しないという中小規模の企業は、通信費の削減やブロードバンドの活用という理由から、まず考えられない。しかし、フレッツを活かす知識を中小規模のユーザー企業が持っているかといえば、不足しているのも現実だ。

そこで注目したいのが、アレクソンの新製品であるコミュニケーションサーバー「IPM30」と「IPV3」だ。両製品は、内線IP電話、LAN、アナログ電話、携帯電話、FAXなど、企業で使われるコミュニケーション手段の多くに対応している。つまり、ひかり電話とフレッツを最大限に活かすことができるのだ。

IPM30とIPV3の個別の特徴をいくつかあげると、次のようなものになる、**無線LANケータイが利用できる**

「FOMA N900iL」に対応しており、社外では携帯電話、社内では無線LANでの内線通話として使える。(IPM30)

ドアホンや構内放送との連動

国内で発売される主なメーカーのドアホンや、構内放送システムと連動できる。(IPV3)



コミュニケーションサーバー「IPV3」

ビジネスホンの接続

INSネット64のU点でビジネスホンと接続できるために、工事が簡単に行える。(IPV3)(IPM30はS/T点)

また、接続した既存のビジネスホンと内線電話ができるため、段階的にIP化ができる。(IPM30)

このほか、コールバック中継発信(IPM30)や各種IP電話サービスとの接続(IPM30、IPV3)も可能だ。

現場から得た経験を製品仕様に強化

アレクソンには10年以上にわたる通信機器の販売・サポートの経験があるが、そこで培われたノウハウは常に製品開発に活かされている。

一例として挙げられるのは、IPV3の

外部入出力接続コネクタにクイックコネクタを採用したことだ。電話工事担当者が手馴れたやり方で工事できるうえ、簡単に外れることもない。

また、IPV3は軽量なため、壁掛け設置ができる。機器の状況を確認しやすく、さらに誤まって機器を蹴るなどのトラブルも未然に防げる。

さらに、迅速に障害を切り分けられるのも特徴だ。IP電話の音声品質を保つにはIP電話だけではなく、LAN上のPCなども監視しなくてはならないが、IPM30とIPV3はIP電話、接続したPC、INSネット64の通信ログをとることができる。

同社では現在、メールサーバーやCTIサーバーとの連携なども検討しているという。IPM30とIPV3は今後いっそう進化していく。アレクソンは製品開発を通じて、中堅中小企業でのネットワーク高度活用に貢献していく考えだ。



コミュニケーションサーバー「IPM30」

お問い合わせ先

株式会社アレクソン

本社営業部：072-777-1584

東京営業部：03-3667-2276

<http://www.alexon.co.jp/>